

# 資源大国 南アフリカと日本の縁

社団法人日本銅センター会長  
(三菱マテリアル株式会社 代表取締役社長)

井手 明彦



最近、資源ナショナリズムが世界的に高まりを見せ、ベースメタルやレアメタルなどの鉱物資源の安定確保は我が国の経済発展にとって不可欠となっております。そんな中、昨年十一月に甘利経済産業大臣が、これらの鉱物資源が豊富にあるといわれている南部アフリカ地域を日本の経済産業大臣として史上初めて訪問されました。この歴史的な資源外交に、私も日本鉱業協会会長として同行し、南アフリカ共和国のソンジカ鉱業エネルギー大臣ら政府要人と面談する機会を得ました。そこで、今回は南アフリカ訪問について綴ってみたいと思います。

今回の訪問で、我が国が官民一体となって鉱物資源を戦略的に確保する熱意とコミットメントを最高レベルで示した意義は誠に大きく、日本鉱業協会の平成十九年十大ニュースでも『戦略的資源外交元年』と紹介しております。

アフリカ南端にケープタウンという喜望峰とテーブルマウンテンで有名な近代都市があります。このケープタウンは日本と不思議な縁で結ばれているということを今回の訪問で知りました。十五世紀末に喜望峰を通るアジアへの大航路が開かれ、一五四三年にポルトガルの南蛮船が喜望峰を経由して長崎(出島)に始めて渡来しました。ケープタウンはそれから十九年後の一五六二年にオランダ東インド会社のヤンファンリーベックが出島から本国に帰国途中に当地で難破したことを契機に、船の修理や燃料の補給基地として築かれた町だそうです。横道にそれますが、南アフリカはチリ同様、ワインで有名ですが最初の苗木を欧州から取り寄せたのもリーベックだそうです。一五八八年には、織田信長が本能寺でイエズス会の表敬を受けた際、初めてアフリカの黒人と会ったとの記録もあります。この

信長は一五八二年には、ヨーロッパに史上初となる公式使節団、所謂「天正遣欧使節」を喜望峰を経由して送り出しています。十六世紀に町が築かれた当初から近くに銅鉱床があるとの噂がありましたが、一六八五年に、世界でも有数のオキープ銅鉱山が北部で発見されるに至っています。但し、当時は未だ運搬手段もなく、実際の開発は、それから二百年の時を経てからで、ケープタウンの発展に大きく寄与しました。現在もこの鉱山も含め、南アフリカ地域は、有望な銅生産地域になっています。資源確保問題に加え、二年後の二〇二〇年にはサッカーのワールド・カップが南アフリカ共和国で開催されます。日本とも縁の深かった南アですが、今後、益々身近になる同国を最大の関心を持って、注目していきたいと思っております。



ケープタウンの市街地  
(背後はテーブル・マウンテン)



ソンジカ鉱業エネルギー大臣との意見交換

## 銅

### 目次

2	カパーロマン 資源大国南アフリカと日本の縁 井手 明彦
3	銅の歴史物語 世界に寄与した鉱害防除技術 「足尾銅山」世界遺産へ第一歩
4	ルポルタージュ H-IIAロケットと共に宇宙に挑んだ銅 宇宙航空研究開発機構
6	リレー随想 心の音色 ープラス
8	銅を学ぶ 銅話の世界 東京下町に息づくALWAYSな 銅の「看板建築」
10	ユーザー訪問 銅部品はノウハウの塊 コンセンストに詰まった多くの技術
12	カパードリウム 銅であんこを練る 成城あんや
13	ICA News/トピックス 銅センターニュース
14	